

## 伝えたい “大事な存在であることを…”

今の社会では、親の仕事が忙しいことや子どもがゲームに費やす時間が多いために、親子が夕飯を共にして話をしたり触れ合ったりする機会が少なくなっています。そのため、子どもを思う親の心が伝わっていない傾向があるようです。

親にとって“子どもは何ものにも代えがたい大切な存在である”のはもちろんのことですが、その真意が子どもに伝わっていない場合が多いようです。例えば“勉強しなさい…”の一言も、親は子どもの将来のためを思って言うのですが、時には違った捉え方をされ、子どもにとって苦痛になっていることがあります。それが積み重なって、子どもの心が爆発して悲しい事件になって表れているように思われます。

特に、現在の少子化傾向の状況では、子どもにかかる親の期待が大きく、それが子どもにとって大きな重圧になっていることもあります。親が子どもに期待をかけるのは当然ですが、それを子どもが理解できるように伝えることが求められます。それが欠けると、時には、子どもに親の押し付けや身勝手として捉えられます。

その前提となるのが《お母さん・お父さんにとって、あなたは大事な存在・大事な家族の一員であること》を伝えることです。

夏休みに実施した<父さんの会>で“どんなことがあっても、最後は、お父さんはお前の味方だ…と伝えている”というお話を聞きました。これも子どもにとって親の心が伝わる言葉で、これからの多くの葛藤があることが予想される生活で大きな拠り所になると共に、子どもが親に大事に思われていることを感じ取る一言でもあります。

その様な言葉がけや働きかけができる親子の触れ合いの機会は数多くあると思いますので、お父さん・お母さんから積極的な働きかけをしていただくことを願っています。それが欠けると、親の大切な思いが子どもに間違っただけで捉えられてしまいがちです。

特に、反抗期には子どもの自立の芽が強く表れ、親子の激しい葛藤になることもありますが、ここでは物事の善し悪しをはっきりわきまえることを教え理解させる心構えを持ち、時には子どもと戦う覚悟も必要です。ただし、親が子どもの気持ちや考えをしっかりと聞く姿勢を何時も持っていれば、必ず道は開けていきます。

とかく、子どもが反抗すると、親は戸惑ったり子どもに振り回されたりしがちですが、ここでも親にとって子どもは大切な存在・何ものにも代えられない存在であることを押し付けにならないように伝える努力が必要です。また、そんな時にも<父さんの会>でも語られていた様に、親が確固とした考えを持つ(ぶれない)ことも重要です。

その様な多くの経験を通して、子どもは“大事な存在だから、自分の命はもちろん他の人の命も粗末にしてはならないこと”に気づいてくれると確信しています。

これから子どもが成長していく長い道のりは平坦ではなく、親子の間でも多くの葛藤や困難も生まれます。それを乗り越えることで、固い絆ができ幸せな生活と家庭を築くことができます。それは人間同士の全ての関わり方に通じ、そこでも、自分にとって相手が大事な存在であることを理解してもらうように心がければ良い方向が開けます。

